

きららとちぎ

2026.8.4

理工系チャレンジ講座 IN帝京大学



たくさん勉強できて
良かった。

DNA（白いふわ
ふわ）が採れて良
かった。

先輩との交流、楽
しかった。勉強に
なった。

先輩との交流で将来
の職業が選べたこと
が良かった。

帝京大学の先生から、
指導をいただいた事
が良かった。

自動車工場見学で
は、これから興味
を示していくのか
な？と感じた。
（保護者）

ワークショップでは、自ら
学びたい気持ちになった。
また、指示待ちだったが自
分の考え方が、言えた。
（保護者）

CONTENTS

理工系チャレンジIN帝京大学 P2
「アンコンシャス・バイアス講座」
令和の寅子にインタビュー P3

「おやこ防災講座」講座内容と参加者の声 P4

バックナンバーは右の二次元コードか、以下のURLから
<https://www.city.tochigi.lg.jp/soshiki/24/88114.html>



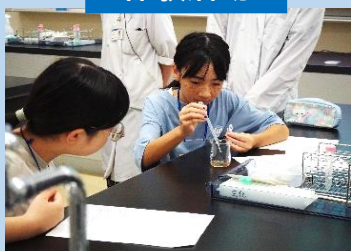
2026.8.4 理工系 チャレンジ IN帝京大学



理工系の進路に興味・関心のある女子小中学生を応援するための企画“リコチャレ”も3回目となりました。今年も宇都宮市にある帝京大学理工学部の平澤先生・高山先生のご指導のもと、次のような活動を行いました

DNAの抽出実験では二人一組で協力しながら、ニコニコ楽しそうに実験を行っていました。DNAの採れた時の笑顔がとても印象的で、参加者の目が輝いていました。将来の自分が見つかるといいですね。(寺内)

体験活動



すりつぶしたバナナに身近にある薬品を混ぜて、DNAの抽出実験に取り組みました。

先輩との交流



(株)ホンダテクノフォートの女性エンジニアや女子大生との交流を通して、将来についてのグループワークを行いました。

施設見学



大学内の植物温室、飛行機格納庫、自動車工場などを見学し、丁寧に説明していただきました。



第2回とちぎ市男女共生大学「アンコンシャス・バイアス講座」 誰もが自分らしく活躍できる地域へ ～思い込みに気付き、可能性を広げる～ 2026.7.27(月)

宇都宮大学DE&I推進センター特任助教 川面 充子先生

『無意識の思い込み』は誰もが潜在的に持っているものであり、脳の思考システムも関係していきなくすことは難しい。しかし、自分には『無意識の思い込み』があるということに気づくことが大切。」と川面先生は話されました。

気づかずに他者と接していたら、それは他者への決めつけや押しつけにつながるし、他者だけでなく自分への決めつけ、押しつけになれば、自分自身の可能性を狭めることになるからです。

「気づくことができれば、対話することで思い込みを補うことができる。」と教えていただきました。

グループワークあり、CM動画の視聴ありで、あっという間の90分でした。特に、ランドセルのCM(子どもが親の希望する色を選ぶ場面と、自分の好きな色を選ぶ場面の様子が放映された)の意外な展開には驚くと同時に、子どもが「好き」を選択する際の親の影響について考えさせられました。(飯嶋)

参加者の感想



無意識のバイアスは直さなければならなかったと思っていたが、“気づくことが大切”という言葉が印象的だった。ほっとした気持ちになった。(女性)

自分自身もアンコンシャス・バイアスを持っているんだと自覚することができてとても興味深かった。(男性)

気づいていてもどうすることもできず分らずに過ごしてきた。もっと早く自分自身を知っていたらよかったと思った。(女性)

令和の
寅子

にインタビュー



今回は、栃木市平柳町にお住いの益子里香さんにご登場いただきました。益子さんは以前は福祉関係のお仕事をされていましたが、県農業大学校でいちご栽培について学ばれた後、現在はいちご農家としてお仕事をされています。

実際に畑にもおじゃまして、いちご農家に転職されたいきさつやこれからの展望について伺いました。

福祉に関わる中で、農業に従事しよう
と思ったきっかけ

就労支援事業所でスタッフとして働いていましたが、利用者さんの作業内容は室内での単調な軽作業で、あまり楽しそうではないと感じていました。

そんな中で「農福連携」という言葉に出会い、これだと思いました。農作業は外で行うものです。そして様々な作業があります。

一人一人が喜びを感じながら作業できるのではないかと思います。それで、自分で農業経営しようと思いました。

農業大学校に行こうと思った理由

就農するに当たり、作るものはいちごと決めていました。県でもいちごを推していて支援が大きいからです。

そこで、県農業大学校いちご学科に行くことにしました。農業大学校では、農業をするための様々な土台作りについて学びました。

実際にいちご作りを始めて

家族の支えが大きな力になっています。夫は勤めを定年退職して一緒にやってくれています。両親も手伝ってくれました。父が重機を扱えるのでビニールハウスは自分たちで建てました。

小学生の息子も自分の得意な作業に生き生きと取り組んでいます。

今後取り組みたい活動

障がいのある人、お年寄り、学校に行けない子ども、そういう人たちが活躍できる場所を作りたいと考えています。

誰にだってできることは必ずあります。農作業には色々な作業があるので、その人にあったものを見つけられると思います。

いずれは加工もやってみたいです。6次産業として、農作業だけでなく活動の幅を広げることがができます。

それぞれの個性を生かして一人一人が生きがいをもてる活動にしていきたいと思っています。

インタビューを
終えて



この人と一緒に活動したい、そう思える魅力ある方だと感じました。

どんな形になるかまだ分からないけれど、必ず実現させたいと話す益子さん。一人ではできないことも、周囲を巻き込んで実現させるに違いありません。(飯嶋)

令和の
「寅子」
大募集

男女共同参画推進に関わる活動をされている方を取材し、このコーナーで紹介させていただきます。
自薦他薦は問いません。ご応募お待ちしております



「親子で学ぼう！おやこ防災講座」



6月28日(日)に、栃木県防災士会所属の防災士、大森敦子さんによる「おやこ防災講座」を開催し、11組27名の親子に参加していただきました。

親子に限らず、様々な視点が入ることで防災は強くなるという講師の言葉が印象に残りました。

講座終了後には、こどもたちに「防災リーダー任命書」が手渡されました。

◆調べよう！自分の避難所◆

「VACAN」(バカン)というアプリを使うと簡単に避難所を確かめることができますことを教えていただきました。

また、実際に避難する際に自分にとって必要な物を書き出す作業に取り組みました。

ないと困るものは考えたことがあるが、「あると安心するもの」があった方がよいというのはとても勉強になった。

自分事として考えて備える必要があると思った。

◆見てみよう！過去の災害◆

栃木市の被災状況の写真を見ながら栃木県の災害の特徴だけでなく、災害時にはネット上にAIを使っただけでその情報が出回ることがあり、発信元を確認して正しい情報を得ることが大切であると教えていただきました。

AIを使った画像の説明が分かりやすかった。

◆考えよう！家庭での危険◆

家の間取り図が書かれたワークシートを使って、家の中にどんな危険が潜んでいるのか親子で話し合いました。



災害時にどんなことが起きるか分からないからこそ、よく家族で話し合いたかった。

吹き出しは参加者の声です。

◆体験しよう！防災グッズ◆

実際に段ボールベッドを使う時には、自分たちで組み立てなければならぬ状況を想定して、協力してベッドの組み立てに挑戦しました。



段ボールベッドを組み立てることが初めてできたのでいい経験になった。

編集後記

「きららとちぎ」21号の発行にあたり、皆さんに見ていただけるようにレイアウトを考えてみました。(寺内)

リコチャレに参加した子どもたちが、自分の考えをしっかりと伝えることができて素晴らしいと思いました。(中島)